

# 感染症に気をつけよう！



平成 25 年  
【4月号】

## 横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況	コメント
風しん	◎ ↑	3月以降も流行が続いています。下段の解説を参考にして、特に、該当する方は主治医に相談し、 <b>予防接種</b> を受けましょう。
マイコプラズマ肺炎	● →	報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。【11月号】

◎ 流行 ● やや流行 ↑ 増加 → 横ばい

今、気をつけたい感染症 = 風しん

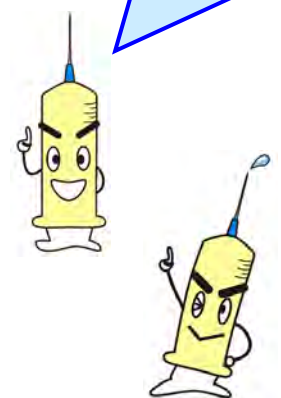


### ◆ 成人男性は予防接種を受けましょう！

- ◆ 横浜市内で風しんが非常に流行しています。風しんは妊婦(特に妊娠初期)が感染すると、白内障・心疾患・難聴などを持った、**先天性風しん症候群**の赤ちゃんが生まれる可能性があります。
- ◆ 予防のためには女性だけでなく、流行の主体である 20~40 代男性の予防接種が重要です。麻しん予防にも役立つ**麻しん・風しん混合(MR)ワクチン**をお勧めします。



詳しくは横浜市感染症臨時情報をご覧ください。



### ◆ 予防接種を受けるためには？

- ◆ 接種の実施状況や費用(有料)を、医療機関にお問い合わせいただく必要があります。
- ◆ 成人の麻しん・風しん混合(MR)ワクチンは小児と同じものです。小児の定期予防接種を実施している**予防接種協力医療機関**に、成人へのワクチン接種実施についてお問い合わせください。



この資料は、**横浜市感染症発生動向調査委員会報告 3月期の市民向け版**です。ホームページの**感染症発生状況**や**啓発用パンフレット**もご覧ください。

横浜市衛生研究所  
感染症・疫学情報課  
【横浜市感染症情報センター】